

ブルネイ・コタキナバル（ボルネオ島） 4泊6日の旅

—旅を楽しむ会（くつがなる）—

2020年2月19日～24日

今回の旅行に関しては2ヶ月前より中国 武漢に始まるコロナウィルスのニュースが飛び込んでおり、旅行参加者の心も大きく揺れ動きました。ただ、ボルネオ島では1人の罹患者も出ておらず、私達が十分気を付ければ問題なく、また必要以上に活動を自粛するよりも“正しく恐れる”方がより良いと考え、2月14日に顔合わせを兼ねた打合せ会を開催して5日後に元気で出発することを約束しました。

〔第1日目 2月19日〕

16名全員が集合時間迄に集合し、定刻11:45 Royal Brunei Air で一路、首都バンドルスリブガワンを目指し、現地時間17:00に無事到着しました。

コロナ肺炎が発生中であり、飛行機はガラガラと思いきや、全くの満席状態で中国系の人も多く、念のためのマスク着用で居たため、疲れしました。30度を超える温度と湿気のある風が吹く空港を後にして、私達は直ぐバスで途中

ライトアップされた金色に輝く New Mosque と落ち着いた佇まいの Old Mosque を見学した後に、今夜宿泊する7つ星ホテル The Empire & Country & Country Club にチェックイン。このホテルは元々王族所有の建物であったため、まるで宮殿のようです。今でも国王は世界で1、2を争う資産家で、土地も油田も全て所有し

ており1秒ごとに\$100収入があるとのこと、贅を尽くした眺めです。時間も遅くなり、部屋に行く前にカートに乗り敷地内の別の建物にある広東料理のレストランで夕食を頂きます。美味しい料理ですが、私にとって唯一残念なことはアルコール類が一切無いことで、紹興酒と一緒にならもっと美味しかったはず。部屋に入れば、広くて、海に面し快適な空間でした。ただ、東南アジアの高級ホテルは皆そうですが建物内は冷房が効きすぎて寒いくらいで、しっかり毛布を掛け、ぐっすり眠ることが出来ました。



ライトアップされたモスク



7つ星ホテルの内部

〔第2日目 2月20日〕

今日も朝から素晴らしい天気。遅い出発なので王宮のようなホテルの探索、海岸の散歩と自由な時間を楽しみ、スーツケースをバスに積み込み出発です。ブルネイは三重県程の小さな国ですから、一晩だけの滞在で市内観光の後はコタキナバル（マレーシア サバ州の州都）へ飛行機で向います。首都のバンドルスリブガワン市内観光は金色で眩し

いニューモスクの前で全員揃っての記念写真を撮り、昼食のマレー料理、特に鶏・牛サテなどはビールが無くても美味しく頂きました。ブルネイは3日後に独立記念日を控えているため、モスク内には入れずオールドモスクも外からの観光のみとなりました。王室の宝物、戴冠式の展示品や山車行列などが展示されているロイヤルレガリア博物館を訪問すると、これでもかこれでもか、とお金持ちぶりが誇示されており、ある意味、清々しい気持ちになりました。税金が無く、医療費が無料と国民にやさしい国ですが土地も石油も国王が保有し、その富が一極に集中した状態で私の勝手な感想ではその富を仕事を通じ分け与えているのではというものです。誰も収益性には関心を持つ必要が無く、ホテルもガラガラですが従業員達は仕事を楽しく、いつものように行っていました。



ニューモスク前で

ブルネイからコタキナバルまでは60人乗りの飛行機であつという間（30分）に着きました。スーツケースを受け取り出口に向かうとコタキナバルでの現地ガイド、ハジャさんが待っていました。ベールで髪を隠し、大声で男まさりの語学の天才です。マレー語、英語、日本語、ドイツ語、アラビア語などを話すことが出来るそうです。



ガイドのハジャさんと

最初に行くのは民族舞踊を見ながら海鮮料理を頂くレストランです。エビやヤシガニなどが出され、食べるのに忙しく、無口になり、どうしても手を使いぐちゃぐちゃにして食べるため拍手もできず、チップも上げられず舞踊の方には大変失礼な客と思われたかも知れません。ただ、最高だったのは美味しいタイガービールを料理と共に頂けたことです。その後は、5つ星ハイヤットホテルに直行し、ゆっくりベッドに横になりました。

〔第3日目 2月21日〕

今日も天気は晴れ、ハイヤットホテルのバイキング朝食を食べ10時に出発です。ハジャさんの案内で Lok Kawi Wildlife Park に行きます。ここは保護されたり、傷ついたり、群れから離れてしまった動物たちが暮らしています。いつもは中国や韓国からの旅行者で混雑するようですが、今日はほぼ貸し切り状態です。小さなピグミー象、テングザル、マレーシアの国鳥であるサイチョー、マレー虎、ハニーベア、オラウータン、テングザルなどを真直にゆっくり見る事が出来ました。



国鳥のサイチョウ



テングザル



オランウータン

その後、州立モスク見学の後にはマレー料理と中華料理の混じりあったニョニャ料理をビールと共に美味しく頂きました。昼食後、ローカルマーケットで旬なランブータンや竜眼（共にライチのような果物）を買い、バスの中でみんなで頂き、中国寺院でお線香をあげた後、狭くでこぼこ道を1時間半走り、やっとボルネオ・バユ リバークルーズの船着き場に着きました。幸運であれば野生のテングザルを見ることが出来るそうです。

全員ライフジャケットを着て出発します。しばらく船が進むと、



大きなオレンジ色のカワセミ



リバークルーズに出発

視力 6.0（私の感想です）の見張り番の男性が指さす方向にカワセミが二羽、木の枝に止まっています。1羽は日本

では見ることもないオレンジとブルーの大きなカワセミそして下の枝にはブルーと白のやや小さいカワセミでした。それから、見張り番の指さす方向には1 m以上もあるオオカゲがゆっくり川岸近くを泳いでいます。その先にはもう一匹のオオカゲが木の上で日向ぼっこの最中です。



木の上で昼寝するオオトカゲ



野生のテングザル

さらにボートは進み、いよいよです。見張り番の指さす方向にはテングザルの家族が木の上で食事をしています。3匹、いや4匹、家族で食事中のようです。ゆっくりとテングザル家族を見てからボートは更に進み、水牛やカニクイ猿達にも挨拶が出来ました。夕方になってきたので、船着き場に戻り、船着き場のレストランで簡単な夕食を頂きました。夕食を終わる頃には日も暮れて、次の

イベントであるボートからの蛍狩りです。バスで15分走り、前とは違う小さな船着き場で全員ライフジャケットを着て、いざ出発です。その時ふと、空を見上げるとなんと満天の星が空に煌めいています。真上には冬の星座であるオリオン座が輝き、明るいシリウスがひと際輝いています。電灯のない真っ暗な環境と汚れないきれいな空気のお蔭です。ボートは進み、左岸の森に何百の点滅する光が見えます。まるで森の光のページェントです。乗務員の一人が蛍が反応するライトを当てると一遍に全部の蛍が光出します。何回も繰り返すと興奮したのか何十匹かの蛍が狂ったように飛び回ります。ボートの中に何匹も入ってきます。中には服の中にも入ってきます。(写真に撮れないのは本当に残念です) 幻想の世界です。実を言えば、余り期待していなかったイベントでしたが、本当に心に残る星たちと蛍たちとの出会いでした。長い一日でしたので、帰りの1時間半のバスではお休みの時間となりホテルに戻りました。

〔第4日目 22日〕

朝9時15分にホテルを出発し、向う先はタンジュンアル駅です。今日は旅の目玉の一つ、蒸気機関車に乗って、パパール駅までの往復76kmの小旅行です。北ボルネオ鉄道は観光列車として20年前に蒸気機関車を復活させており、客はほとんど海外からの旅行者です。この85トンの蒸気機関車は1960年頃に英国で生産され、世界でも実際に使用されているものは数台のみで、木材を燃やして走ります。連結されている5両の



薪で走る蒸気機関車

タンジュンアル駅で



客車は日本で設計され、内も外も1900年代の客車そのままに復元されています。10時、いよいよ出発です。真ん中の通路の両側でテーブルを挟んで2人が向い合せて座ります。イギリス風のユニフォームを着た女性車掌がテーブルにレモンティーを運びながら乗客一人一人に記念用のパスポートを配り、そして駅ごとにスタンプを押してゆきます。途中のキナルト駅では40分程度の停車時間があるので、駅近くにある中国寺院を見学し、終点のパパール駅を目指します。途中に30秒程度のトンネルがあり、開けられた窓（当然、エアコンはありません）から煙が入ってきて、何故か懐かしい匂いがします。パパール駅に12時前に着き町の探索になりますが、駅前のマーケットの他にほとんど見るものは無く、暑いので近くの居酒屋でビールを飲みながら発車時間を待つ事になりました。12:30に蒸気機関車はタンジュンアル駅に向け出発しました。帰りの車内では丸いステンレス製の4段重ねランチボックスの昼食（ティフィンと言います）を頂きました。

昼食後には女性車掌がトウモロコシのアイスクリームを配ってくれました。懐かしい味がしました。列車は週2回、1日1往復ゆっくり走るのので、外で遊ぶ子供達にも良く見え、みんな一生懸命手を振ってくれます。

午後1時40分にはタンジュンアル駅に戻って来ました。この後は、一旦ホテルに戻り、

休憩した後にタンジュンアル海岸の散策に行きます。雲の一切ない水平線に沈む夕陽を見ることはなかなか無いので、素晴らしい経験でしたが、余りに待ち続けたので疲れてしまい、次のおしゃれなウォーターフロント見学もそこそこに市内のレストランに向かいました。夕食は四川料理で中華料理とビールはグッドマッチングであることを再度、確認できました。

〔第5日目 2月23日〕

旅は一旦、始まればあっという間に時間が過ぎてゆくものです。今日はいよいよ最後の日となり、スーツケースをバスに積み込み、朝早い7時半にキナバル自然公園に向かいます。途中、キナバルマーケットに立ち寄り休憩後、山道をバスが登ってゆくと、窓から4,095mのキナバル山の頂上が幸運にも見る事が出来ました。ほとんど場合、頂上は雲に隠れており、こんなにはっきりと頂上が見えることは本当に珍しいとの事、確かに数時間後には頂上は雲に隠れてしまいました。10時過ぎにはキナバル国立公園の中の植物園を1時間半程度かけて見て回ります。



4段重ねティフィン



キナバル山頂を背景に

600 種を超えるランがあるとのことですが、今回は最も小さな白いランの花を含め 16 種類のランの花や数種類の食虫植物を見て、カメラに収めました。昼食はローカルフードのカダザン料理を頂きました。次に目指すは日本軍が戦時中に発見したポーリン温泉です。ここでは足湯が出来ますが私達は取敢えず、地上 43.75m の木の上に作られた 175.7m の吊り橋の制覇です (Canopy Walkway)。細い板が二枚ずつ置かれており、ロープに掴まり渡って行きますが、一度に 6 人迄しか吊り橋には入れません。足からゾクゾクしてくる嫌な気分を我慢し、やっと渡り終えることが出来ました。



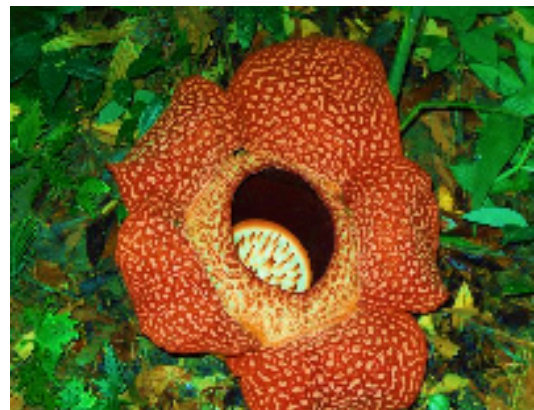
キャノピーウォーク



ポーリン温泉の足湯

リラックスするための足湯は本当に気持ちが穏やかになります。この安らいだ気持ちの中、バスに戻ると、何と近くの個人所有の森の中で世界一大きな花、ラフレシアが咲いているとの情報があり、急遽そこに直行です。一人 30 リンギットを支払い、早速入場です。あの大きな花は良くターザンが枝から枝へ飛び移る時に掴む蔓 (リアナ) に寄生する植物と聞いて、我が耳を疑いました。

確かに開き始めて 2 日目の直径 78 cm の花がリアナの蔓の上に乗っています。話では腐臭があるとの事でしたが、何年間も使用されていない部屋のほこり臭い匂いのような匂いでした。今回のツアーの工程には入っていませんでしたが、幸運にもラフレシアが見られて本当にラッキーでした。その後はコタキナバルに戻り、最高の中華料理を頂き、コタキナバルよりブルネイ経由で成田に戻って来ました。



ラフレシアの花

成田空港では香港からの便とほぼ同時に着きましたが、私達は直ぐに入国手続きの列に並ぶことが出来ましたが、香港からの人々は、全員検疫の検査を受けることになったようです。全員無事、何事も無く帰国出来た事は本当に良かったと思います。

旅は多くの不確定要素を含んでおり、特に自然を相手にしたものはその傾向が強いです。

天気でなければ見られない・行けない、タイミングが合わなければ見られないなど様々な偶然が旅の成功を左右しますが、今回は全てのタイミングがぴったりと合いました。このような旅は私にとっても初めてのような気がします。野生のテングザル、キナバル山頂、蛍の乱舞、ラフレシアの花と見る事が出来れば幸運と言われていた全てを見ることが出来ました。

これもこの旅の工程を計画してくれた岡川世話人（本人は無念の1日前のリタイアとなり自宅待機でした）と参加者全員の日頃の善行の賜物ではと思います。岡川世話人、参加者の皆さん、ありがとうございました。

旅を楽しむ会（くつがなる）

ブルネイ・コタキナバル旅行

リーダー代理 埴 耕平